



310
53
庫文山元

長壽

弘化二乙巳年

西在初中日記

從正月朔日
至五月九日

遠山
用家

6-42
元山 1/2

特別
U5
6686
2

特

門 5
號 6686
卷 2

正月朔日發賣時



宗人自多與人... 涉程河中... 宗人自多與人... 涉程河中...

一 宗人自多與人... 涉程河中... 宗人自多與人... 涉程河中...

一 宗人自多與人... 涉程河中... 宗人自多與人... 涉程河中...

昭和二十七日
二月二十七日
日
購

一 冒人 立山山守言其自命の手紙に書出せる

但し其の語句は松の内藤村に於て長年とす
也との事なり 後人 元長と云ふ事なり

一 諸家書後元年 以て為に松村に書出せる事

出づる事なり

一 都筑平藤松江代官言其能古く松江健高松

山渡地方高木守言其能古く松江健高松

一 支那知事言其能古く及木園大藤及山守言

所司古事及皮赤林門下及古事なり

一 立山山守言其能古く及古事なり

一 今在調役所年言其能古く及古事なり 地役人

言其能古く及古事なり

一 立山山守人言其能古く及古事なり

一 言其能古く及古事なり

一 古事なり

一 唐江守言其能古く及古事なり

正月二日甲子

一 今在調役所年言其能古く及古事なり

一 言其能古く及古事なり

一 古事なり

一 今在調役所年言其能古く及古事なり

一 言其能古く及古事なり

一 今在調役所年言其能古く及古事なり

山寺のついでに遊ぶ事

二月三日己未晴

一
今午安禪寺の大音寺
清之助は此の寺の住持である天の氣おもしろ
まじりて遊

松平紀伊守の御殿

中野

中野の御殿

生野の御殿

松平の御殿

山寺のついでに遊ぶ事
清之助は此の寺の住持である天の氣おもしろ
まじりて遊

山寺のついでに遊ぶ事

中野

中野の御殿

山寺のついでに遊ぶ事

山寺のついでに遊ぶ事
清之助は此の寺の住持である天の氣おもしろ
まじりて遊

正月四日 雨宮暗

一 今も春の客

一 今も春の客 今も春の客 今も春の客 今も春の客

松平の店に存る書

板倉の書

松平の書

今も春の客 今も春の客 今も春の客 今も春の客

油紙の書 一
書紙 =

一 今も春の客
正月五日 丁卯雨

本意の書

かの書

用達

申紙の書
書紙代三書

今も春の客 今も春の客 今も春の客 今も春の客

本意の書

書紙

本意の書

書紙

封紙

今も春の客 今も春の客 今も春の客 今も春の客

一 毛利古事再探の事細川織部及山内右衛門
松平主君及江崎の家来板金守の友松平主君の友
とていふ中にて西書主の配向の事松平主君の
用達とお波の達と事一

西書主の友
山内右衛門
松平主君の友

松平主君の友
村松主君の友

三方探 古事探 古事探 古事探 古事探
古事探 古事探 古事探 古事探 古事探
古事探 古事探 古事探 古事探 古事探
古事探 古事探 古事探 古事探 古事探

目録 道政 古事探 古事探 古事探
古事探 古事探 古事探 古事探 古事探
古事探 古事探 古事探 古事探 古事探
古事探 古事探 古事探 古事探 古事探

古事探 古事探

古事探

古事探

古事探 古事探 古事探 古事探 古事探
古事探 古事探 古事探 古事探 古事探
古事探 古事探 古事探 古事探 古事探
古事探 古事探 古事探 古事探 古事探

先務之月也受納

二月六日戊辰晴風

一 今之世也

三 志在存心

四 復也

由和友之進友

年以百餘句以復也
由和友之進友
由和友之進友
由和友之進友

日 宿心家集

五 志在存心

二

十時之進友

五 志在存心

右宿心家集之用進使之集

松平紀前書

松平紀前書

松平紀前書

流江社集之成也
流江社集之成也
流江社集之成也

一 松平犯前
 一 中島左近
 一 内宿友
 一 為本達
 一 松平犯前
 一 中島左近
 一 内宿友
 一 為本達

正月七日巳時
 今之世

四書狀一

右年江戶校河...

松平
 中島
 内宿
 為本

正月八日庚午晴風

一 今之世
 一 清之
 一 此供方
 一 但
 一 寺
 一 清宮
 一 清宮
 一 清宮

大音寺
 安祥寺
 清宮

中島左近

松平
 中島
 内宿
 為本

右取用人面々修めたる心算の事々々
 用向の事々々中々心算の事々々
 一 此中書事々々四編中々心算の事々々改元取仕の事
 一 一各從京師中仲進の事々々法向の事々々
 一 一各山小の事々々心算の事々々改元取仕の事々々
 一 一各山小の事々々心算の事々々改元取仕の事々々

四月九日辛未

一 今例刻の事々々心算の事々々改元取仕の事々々
 一 一各山小の事々々心算の事々々改元取仕の事々々
 一 一各山小の事々々心算の事々々改元取仕の事々々

心算の事々々

心算の事々々
 心算の事々々

一

心算の事々々

心算の事々々
 心算の事々々

心算の事々々

心算の事々々

心算の事々々

心算の事々々

心算の事々々
 右取用人面々修めたる心算の事々々
 用向の事々々中々心算の事々々

之状一

宗元

平田

古川

中平

松平

家老

徳川

徳川

書状

一巻

一巻

中平

先例

中川

中川

中川

古川

正月十日

一

正月十日癸酉晴

一 今夕倒幕の少佐捕らるるは、山田良和なり、此處の少佐に
せん、及ばざるは、山下少佐に捕らるるは、山田良和なり、

細川中書

少佐

介也市田

半島原の原を急ぎ、此處に陣を敷き、

此處に陣を敷き、

此處に陣を敷き、

此處に陣を敷き、

此處に陣を敷き、

此處に陣を敷き、

吉岡
右衛門

日

日

人

東蝦夷地より、川合の原に陣を敷き、
波多新田の原に陣を敷き、
一書の手入の敷と、此處に陣を敷き、
此處に陣を敷き、
向山如去本月九日、此處に陣を敷き、
おろし、
之の如く、此處に陣を敷き、

中上公望

右へ通函書 在出 中上公望 中上公望
挨拶

尚方様

中上公望

中上公望

中上公望

中上公望

右へ通函書 在出 中上公望 中上公望

一 此後院江府 中上公望 中上公望 中上公望
中上公望 中上公望 中上公望 中上公望
中上公望 中上公望 中上公望 中上公望
中上公望 中上公望 中上公望 中上公望
中上公望 中上公望 中上公望 中上公望

正月廿二日甲戌

今上御在宮

一 中上公望 中上公望 中上公望 中上公望
中上公望 中上公望 中上公望 中上公望
中上公望 中上公望 中上公望 中上公望
中上公望 中上公望 中上公望 中上公望
中上公望 中上公望 中上公望 中上公望

中上公望

中上公望

中上公望

中上公望 中上公望 中上公望 中上公望
中上公望 中上公望 中上公望 中上公望
中上公望 中上公望 中上公望 中上公望
中上公望 中上公望 中上公望 中上公望

正月十三日乙亥

一、今夕倒幕の世に於ては、古くは世役なりと云ふも、清用始に之を中絶し、後より時道

細川春之助の撰

用達使

細川春之助の撰
用達使
一筆

公羊江分の程細末に世に於ては、中絶

昌人の撰

井つ大七郎友

上羽又七郎友

中野又七郎友

佐々木又七郎友

仲命包書状一書

右用達使の書状一書

中川源兵衛

昌人の撰

進友書七友

昌人の撰
一書

右用達使の書状一書

昌人の撰

昌人の撰

昌人の撰

大村丹後守撰

昌人の撰

昌人の撰

時位正字上未中八廿後書為或或
出立大浦止為初多九之為以好而
為年路以初之幾幾之有以位使
ら中入之言

古皇御歌

一 四九千九所之由是成之以來古之
中皇御歌之由也
一 右皇御之由奉言之連成之由也
一 伊波定化之由結之由今便之奉言之由阿波定
由也船未津之由取板方由折由也
由也折由也 伊波定化之由今便之奉言之由阿波定
由也折由也 伊波定化之由今便之奉言之由阿波定
由也折由也 伊波定化之由今便之奉言之由阿波定

正月十四日西子
今之少在者

油色色出書一

用達使
朝奉大膳長史換小
尚人原名

女利難
完戸子後左

右年路之程初中未之由也

一 伊波定化之由結之由今便之奉言之由阿波定
由也船未津之由取板方由折由也
由也折由也 伊波定化之由今便之奉言之由阿波定
由也折由也 伊波定化之由今便之奉言之由阿波定
由也折由也 伊波定化之由今便之奉言之由阿波定
由也折由也 伊波定化之由今便之奉言之由阿波定

一 右の如くおぼえ願ふ事奉り申す

正月十六日

一 今更におぼえ願ふ事奉り申す
高知の如くおぼえ願ふ事奉り申す
一 高知の如くおぼえ願ふ事奉り申す

松平定房

毛尾

一 高知の如くおぼえ願ふ事奉り申す
年昭の如くおぼえ願ふ事奉り申す

一 高知の如くおぼえ願ふ事奉り申す
細川赤松の如くおぼえ願ふ事奉り申す
高知の如くおぼえ願ふ事奉り申す
高知の如くおぼえ願ふ事奉り申す

正月十六日

一 今更におぼえ願ふ事奉り申す
神社礼正の如くおぼえ願ふ事奉り申す

御方社
松平社
日
高知

八幡社 白紙

伊勢守 白紙

伊勢守 白紙

伊勢守 白紙 伊勢守 白紙

一 伊勢守 白紙 伊勢守 白紙

伊勢守 白紙 伊勢守 白紙

一 伊勢守 白紙 伊勢守 白紙

伊勢守 白紙 伊勢守 白紙

伊勢守 白紙 伊勢守 白紙

伊勢守 白紙 伊勢守 白紙

伊勢守 白紙 伊勢守 白紙

伊勢守 白紙 伊勢守 白紙

伊勢守 白紙 伊勢守 白紙

一 松平大権大支那の世の家来をわの舞次印及宮子
丹後及よりしるは書心之能くをうりし事をも例を
以て達しるは後の達しる事

正月廿七日 巳卯晴風

一 今例年より供仕する安祥寺
御堂より御詣まより御参りて
為心之令守り奉仕せし
おしりもあはれと云ふ事

右村後中務
山内自より後

時侯は上且兼る事
丹後守の在る也
ら思はれり
おしりもあはれと云ふ事
おしりもあはれと云ふ事
おしりもあはれと云ふ事

正月廿八日 庚辰曇風

一 今例刻より供仕する
おしりもあはれと云ふ事
おしりもあはれと云ふ事
おしりもあはれと云ふ事

一 養書をその如き之をその如き之に
 一 以て成るるを其の持得る事
 一 一 亦其の去りて其の来に指別して用多し其の如き
 去りて其の来に指別して用多し其の如き
 但し其の如き之を其の如き之に
 持得る事其の如き之に

全方百七
 于細

松平大隅守
 其の如き

其の如き

手紙の如き之を其の如き之に
 一 達する其の如き之に
 一 一 其の如き之に

書用人の面會信之を其の如き之に
 一 其の如き之に
 一 一 其の如き之に

其の如き

其の如き

其の如き

其の如き

其の如き

其の如き

其の如き
 其の如き
 其の如き

書目用人而會清身之是所之方也
細也
余嘗謂古者推之曰雖曰其言以 然其意也
其言美之謂也

平月十九日 辛巳時

一 大村丹後書指年始為之始向之其初也
一 道之謂也 上人少之其始也 人由道
以別道之為人 且其之其也 且其
清氣之其也 且其也 且其也 且其也

一 通之事

大村丹後書指

大村丹後書指

大村丹後書指
大村丹後書指
大村丹後書指
大村丹後書指
大村丹後書指

大村丹後書指

大村丹後書指

七

大村丹後書指

正月 丙午 丑年 丑

一 今より申す上る

一 松平大内膳多頼の御老侍御三郎左衛門守及上正
三郎左衛門守多頼の御孫御三郎左衛門守及上正
お殿の御孫御三郎左衛門守及上正

松平左衛門守

御三郎左衛門守

右

御三郎左衛門守

二月 丙午 丑年 丑

一 今より申す上る

一 徳川御三郎左衛門守及上正の御孫御三郎左衛門守及上正
御三郎左衛門守及上正の御孫御三郎左衛門守及上正

徳川御三郎左衛門守

御三郎左衛門守

右

御三郎左衛門守

徳川御三郎左衛門守

御三郎左衛門守

右

御三郎左衛門守

徳川御三郎左衛門守

御三郎左衛門守

丹 守 進

御三郎左衛門守

改年之由是交國出友及以自勿既
愈以是海也故年一海重たふ事始
の由程洞以是書と申す也

昌人啓

可致

山書成二

定自之及

廣天院極去年月十日

其元之方是也其法必也其也
其也其也其也

一多其改元法也其也 任也其也

其改元法也其也

其改元法也其也

昌人啓

可致

日人

昌人啓
可致
日人

其改元法也其也

其改元法也其也

其改元法也其也

其改元法也其也

其改元法也其也

其改元法也其也

其改元法也其也

乃接抄

松平紀前書

山部宗二

中夜 米倉接抄

右之四脈中

之脈皆皆

廣天流極 山部宗二 中夜 米倉接抄

一 日中之年 宗二 中夜 米倉接抄

一 日中之年 宗二 中夜 米倉接抄

一 日中之年 宗二 中夜 米倉接抄

以月肥者 乃接抄

妻身書

天之子 乃接抄

白江書

乃接抄

松平紀前書

乃接抄

乃接抄

日向郡の事

郡 西古史反

松橋又と反

日向郡の事

正月廿五日 甲申

日向郡の事

日向郡の事
松平兵衛と松平道松平肥後守松平三道
佐分利松平と松平道松平肥後守松平三道
左馬守松平と松平道松平肥後守松平三道
中松平と松平道松平肥後守松平三道

日向郡の事

日向郡の事

中松

日向郡の事

日向郡の事

日向郡の事

日向郡の事

日向郡の事

日向郡の事

日向郡の事

日向郡の事

大村丹後守御前

日記

古の道に倒れしを正し給ふ事

日

正月廿六日丁亥晴

- 一 今より正月廿六日
- 一 大村丹後守御前

松平肥前守御前

日記

弟余程重友

日記一

肥前守御前及古村河守御前本國松平
 清和申す事多し御書御意申控列
 昔より御書より御意申控列
 此より及今御書御意申控列
 御書御意申控列十九日
 御書御意申控列
 御書御意申控列
 御書御意申控列

正月廿六日戊子晴

- 一 今より正月廿六日
- 一 大村丹後守御前

書人より

一 伊豆守の御書に於ては、
御書に於ては、
御書に於ては、
御書に於ては、
御書に於ては、

正月廿七日

一 今、例、
一 昨夜、

一 為、
一 書、

行内録
封

右通、
一、

一、

一 西宅我の事

西宅我

松平屋徳と稱

毛屋と云ふ

右町徳の事
推抄

松平屋徳と稱

白米の事

白米の事

松平屋徳と稱

白米の事

右町徳の事

松平屋徳と稱

松平屋徳と稱

願海に唐船漂流ありては
中より達出り候中
達出候船ありては
達出候船ありては

右町徳の事

一 松平屋徳の事
向ら山来りては

正月廿八日 庚寅 晴

一日 正月廿八日

一 松平の屋敷に於てお茶を奉り及て上りて
お茶の例に依りて用達と相成りて

一 湯の湯の御座を御座所より向井の御座所へ
お可なり代りてお座す

正月廿九日 辛卯 晴

一日 正月廿九日 御座所より安禪寺

湯の湯の御座を御座所より向井の御座所へ

お座す

お座す

用達使

お座す

お座す

お座す

お座す 御座所より向井の御座所へ

二月朔日 壬辰 曇

一日 二月朔日

一 此の如く程に... 御役所年寄向井隆徳部
書付乙名代... 御出

意在御出

御出

御出使

御出使

御出使

十時... 御出使

御出使... 御出使

御出使

御出使

御出使... 御出使

御出使

御出使

御出使

二月... 御出使

御出使

御出使

御出使... 御出使

忠告目人高命清... 及後好... 山... 山...

二月三日 甲午晴

今日... 大村... 山... 山... 山...

大車... 山... 山... 山...

二月四日 乙未晴

仲... 山... 山... 山... 山...

右... 山... 山... 山... 山...

大村母屋書物

白米兼入世向書

昌如子魚つ及

右書之入世連而此連は在公母屋書物自書院
船之... 中ノ... 向書... 向書... 向書...
向書... 向書... 向書... 向書... 向書...
向書... 向書... 向書... 向書... 向書...

白米兼入世向書

白米兼入世向書

白米兼入世向書

白米兼入世向書

白米兼入世向書

白米兼入世向書

白米兼入世向書

白米兼入世向書

白米兼入世向書

白米兼入世向書

白米兼入世向書

二月六日酉時

今日の事

今日の事

四ノ命の反の書 意の別は推判の
心裁の存の事と別して存の推判
の事と存の事と別して存の推判

推判の事

所の心裁の事と別して存の推判の事
心裁の存の事と別して存の推判の事
心裁の存の事と別して存の推判の事

二月廿七日の事
心裁の存の事と別して存の推判の事

心裁の存の事と別して存の推判の事

二月廿八日の事
心裁の存の事と別して存の推判の事

二月廿九日の事
心裁の存の事と別して存の推判の事

心裁の存の事

心裁の存の事

古河徳川の家

松平定房

書後

栗田節友

徳川家

古河徳川の家

古河徳川の家

松平定房

書後

栗田節友

徳川家

古河徳川の家

古河徳川の家

細川忠興

書後

佐分利才助

古河徳川の家

佐分利才助

古河徳川の家

二月廿五日 辛丑 晴
一 少子 少子 少子

以書成一

大村 大村 大村

用 用 用

五回 五回 五回

大村 大村 大村

大村 大村 大村

右 右 右

少 少 少

言 言 言

向 向 向

唐 唐 唐

右 右 右

以 以 以

右 右 右

以 以 以

少 少 少

以 以 以

右 右 右

二月廿五日 壬寅 晴

一 今 今 今

一 以中対以形道... 松平... 此封...

二月十二日癸卯晴

少...

一 松浦... 亦渡

書付九巻

松平... 書付

申達使

少... 申達向書付...

二月十三日甲辰晴

一 今例... 但... 申...

松平... 書付

申達使

此方係内^保地... 三首目... 天... 以達生口

此... 一... 一...

松浦... 少役

聖元... 友

此... 此... 此...

白... 此...

松平... 用... 皮

右... 此... 此...

此... 厨...

本場... 道... 皮

此... 于... 此...

此... 此... 此...

此... 此... 此...

此... 此...

此... 用... 皮

六段元并者出中世を極多利に列し 仁孝
しんらうめつる御記也

少宮様へ御書

御書

大坂御書

千鶴子

あつちの如く御書に記しし御書

御書に記しし御書に記しし御書
御書に記しし御書に記しし御書

御書

日人

千鶴子

あつちの如く御書に記しし御書

御書

二月十日

御書

御書に記しし御書に記しし御書
御書に記しし御書に記しし御書

二月十日

御書

御書に記しし御書に記しし御書
御書に記しし御書に記しし御書

二月十六日丁未晴

今午の風は涼

一 伊豆の山は雪が積りて山々の姿は白く見ゆ
一 成田の山は雪が積りて山々の姿は白く見ゆ
一 成田の山は雪が積りて山々の姿は白く見ゆ

二月十七日戊申晴

一 今午の風は涼
一 伊豆の山は雪が積りて山々の姿は白く見ゆ
一 成田の山は雪が積りて山々の姿は白く見ゆ

松浦の雪景

二月十七日

松浦の雪景

お載せ

松浦の雪景
二月十七日

松浦の雪景

遠山雪景

二月十七日

松浦の雪景
二月十七日

一人教諭合治身兵具亦用訓練
由仕合會の在るに調練は治身
亦廣く亦及ぶ由りて此處に
送るべきなり

二月十九日

此方は内治身兵具亦用訓練
由仕合會の在るに調練は治身
亦廣く亦及ぶ由りて此處に
送るべきなり

松平定信
書役
米倉格重友

此方は内治身兵具亦用訓練
由仕合會の在るに調練は治身
亦廣く亦及ぶ由りて此處に
送るべきなり

三月四日
此方は内治身兵具亦用訓練
由仕合會の在るに調練は治身
亦廣く亦及ぶ由りて此處に
送るべきなり

二月十九日

此方は内治身兵具亦用訓練
由仕合會の在るに調練は治身
亦廣く亦及ぶ由りて此處に
送るべきなり

二月十八日

此方は内治身兵具亦用訓練
由仕合會の在るに調練は治身
亦廣く亦及ぶ由りて此處に
送るべきなり

二月十九日

一 今の世に於て

書物類

向井種彦郎

明治廿五年秋葉執事は此の世に於て

本年は此の世に於て

右の如き事ありしに於て

在りし世に於ては此の世に於ては此の世に於て

一 今の世に於て

二月廿日 辛未 雷雨

二月廿日 壬子 雨

一 今の世に於て

松平紀常稿

米倉種彦友

此の世に於て

先月十日

此の世に於て

此の世に於て

此の世に於て

此の世に於て

此の世に於て

此の世に於て

右田村の長官の心より接待

本村の長官の接待

田中村

田中村

本村の長官の接待

本村の長官の接待

二月廿二日 奉書あり
一 本村の長官の接待

本村の長官の接待

本村の長官の接待

本村の長官の接待

本村の長官の接待

本村の長官の接待

本村の長官の接待

本村の長官の接待

本村の長官の接待

本村の長官の接待

本村の長官の接待

本村の長官の接待

本村の長官の接待

二月廿三日 甲寅 晴
 今例希に在任物より之山に後前山に用より為りて
 成りあつた

松平紀元書指
 用達使

此方は内海に於て是を踏む古書に之目
 之旨目石火夫指古放出本物に之目
 本指に之目達使

己二月廿三日
 松平紀元書指
 本指に之目達使

一 松平紀元書指に在任物より之山に後前山に用より為りて
 成りあつた

一 今例希に在任物より之山に後前山に用より為りて
 成りあつた

二月廿四日 乙卯 晴

一 今例希に在任物より之山に後前山に用より為りて
 成りあつた

二月廿五日 丙辰 晴

一 今例希に在任物より之山に後前山に用より為りて
 成りあつた

二月廿六日 丁巳 晴

一 今例希に在任物より之山に後前山に用より為りて
 成りあつた

四多様一
干鯛一折

去年船に投じ置るに
所用の金會請に
一、要し用は申調中
に給物に心づ務り
受納

言出

去年船に來り申建度

多量の
浦上
濱邊に在る及

古川
平田
古川信吉及

言出

去年船に投じ置るに
所用の金會請に
一、要し用は申調中
に給物に心づ務り
受納

松平

毛屋
及

去年船に來り申建度

言出

浦上
濱邊に在る及

去年船に來り申建度

去年船に來り申建度
所用の金會請に
一、要し用は申調中
に給物に心づ務り
受納

信少正雅判事記向事の事の徒使の事の事

一 日向の程元一保の事の事

少正正佐佐木

子波

田舎の事

日向の事

日向の事

大徳寺 使僧

所供の事

古物多しの事 大徳寺の事 日向の事 例の事 供物の事



二月廿七日 戊午晴

一 今例判の事 日向の事 例の事 日向の事 例の事 日向の事 例の事 日向の事 例の事

日向の事

日向の事

日向の事

日向の事 日向の事 日向の事 日向の事 日向の事 日向の事 日向の事 日向の事 日向の事 日向の事

松平紀前書
抄
松平紀前書

少の...
...

一 松平紀前書...
...

一 松平紀前書...
...

二月廿八日巳未時

一 松平紀前書...
...

...

一 松平紀前書...
...

大村母屋...

...

...

...

一 松平紀前書...
...

二月廿九日庚申

少子... 時... 人... 但... 一...

少子...

少子...

少子...

少子... 少子...

少子... 少子...

少子...

少子...

少子... 少子... 少子...

二月晦日辛酉晴風

一 少くも風を止む

一 中々東北の風を止むと云ふは、此の風書例に依りて、
おぼゆる

三月朔日壬戌の晴風

一 少くも風を止む

一 此の風書例に依りて、此の風書例に依りて、
此の風書例に依りて、此の風書例に依りて、
此の風書例に依りて、此の風書例に依りて、
此の風書例に依りて、此の風書例に依りて、

大村舟屋

書

小除日

温 此の風

此の風書例に依りて、此の風書例に依りて、

此の風書例に依りて、此の風書例に依りて、

此の風書例に依りて、此の風書例に依りて、

禮部
禮部

右側
右側
右側

禮部

禮部

禮部

三月三日

今日

禮部

禮部

禮部

禮部
禮部
禮部

禮部

禮部

禮部

禮部

禮部

禮部

禮部

禮部

禮部
禮部
禮部

三月三日 甲子晴

一 今午の心算書

一 伊豆の海防の要領の記述

一 上巳の日の後、徒園と花見の目録の記述

一 伊豆の海防

一 右の記述は、甘田川沿いの地帯の記述

一 伊豆の海防の要領の記述

一 伊豆の海防の要領

伊豆の海防

伊豆の海防

伊豆の海防

伊豆の海防

伊豆の海防

伊豆の海防

伊豆の海防

伊豆の海防の要領の記述

伊豆の海防

伊豆の海防

伊豆の海防

伊豆の海防

伊豆の海防の要領の記述

伊豆の海防

伊豆の海防の要領の記述

一
大... 井... 乙...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

上はるの程廻り目録に在る如く
中本

此の如く
及接取

- 一 高野の程廻り目録に在る如く
- 一 日次大徳寺の如く

松平記前書
中本
新書接取

此方は内海に在りて本海に在りて
之を自石大先徳寺古放也
此の如く

高野の程廻り目録に在る如く

- 一 高野の程廻り目録に在る如く
- 一 高野の程廻り目録に在る如く
- 一 高野の程廻り目録に在る如く
- 一 高野の程廻り目録に在る如く
- 一 高野の程廻り目録に在る如く

山洋園日記

地蔵

あつた道徳の心持
少夜西風は長き
静かき心持

記

あつた道徳の心持の風情

三月三日

一
今月例刻の仕持らるる山は
静かき心持の風情

静かき心持

静かき心持

静かき心持

静かき心持

井の木の心持
静かき心持
中野の心持

静かき心持

静かき心持

古事本紀卷之六

日向者古事本紀

細川中納言

法皇御事

相承者御事

天皇御事

大村守良御事

皇孫十九御事

三月九日

中ノ御事ノ御事ノ御事

御事ノ御事ノ御事ノ御事

御事ノ御事ノ御事ノ御事

三月九日

御事ノ御事ノ御事ノ御事

御事ノ御事ノ御事ノ御事

御事ノ御事ノ御事ノ御事

御事ノ御事ノ御事ノ御事

御事ノ御事ノ御事ノ御事

御事ノ御事ノ御事ノ御事

御事ノ御事ノ御事ノ御事

御事ノ御事ノ御事ノ御事

御事ノ御事ノ御事ノ御事

松平記

当所

生野御殿及

中野御殿及

中野

中野御殿及

おまへ方の記を以て御所御殿に記す
おまへ方の記を以て御所御殿に記す

おまへ方の記を以て御所御殿に記す

三月十日 辛未 晴

今頃の事

三月十日 壬申 晴

今頃の事
おまへ方の記を以て御所御殿に記す

松平記

当所

おまへ方の記を以て御所御殿に記す

おまへ方の記を以て御所御殿に記す

おまへ方の記を以て御所御殿に記す

おまへ方の記を以て御所御殿に記す

一 田中某調中... 其... 達... 換...
 一 近... 由... 人... 其... 本... 記... 其... 及...
 一 米... 控... 及... 其... 其... 其... 其... 其...
 一 是... 是... 一... 帳... 之... 者... 也...
 一 伊... 伊... 伊... 伊... 伊... 伊... 伊... 伊...
 一 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...

一 三月十三日 甲戌晴
 一 今... 記... 者

一 三月十四日 乙亥雨
 一 今... 記... 者

伊... 伊... 伊... 伊... 伊... 伊... 伊... 伊...
 伊... 伊... 伊... 伊... 伊... 伊... 伊... 伊...

一 右... 右... 右... 右... 右... 右... 右... 右...
 一 今... 今... 今... 今... 今... 今... 今... 今...

一 三月十五日 丙子雨
 一 今... 記... 者

一 所々へ出向ふに日々申達し奉り候へ
一 申上り候用は、先づ申上り候御事の中、其の
位々より申上り候御事

三月廿八日巳卯時

一 今より申上り候

相續する御事

先づ御事致すに、其の御事致すに、
先づ御事致すに、其の御事致すに、
先づ御事致すに、其の御事致すに、
先づ御事致すに、其の御事致すに、

一 今より申上り候
三月廿九日庚辰時

先づ御事致すに、其の御事致すに、

先づ御事致すに、其の御事致すに、

先づ御事致すに、其の御事致すに、

先づ御事致すに、其の御事致すに、
先づ御事致すに、其の御事致すに、
先づ御事致すに、其の御事致すに、
先づ御事致すに、其の御事致すに、

古物多し其間人面金貨等ありて其色の
白くしきものありて海中より得たりと
及後段

松平屋敷

古物

吉田屋敷

三好屋敷

明石屋敷

尾田屋敷

紀伊前所松平屋敷より大石屋敷まで
此道具其形跡多し其色も赤く
古物ありて其色も赤く

松平屋敷

古物

三好屋敷

古物

明石屋敷

尾田屋敷

古物多し其間人面金貨等ありて其色の
白くしきものありて海中より得たりと
及後段

松平屋敷

古物

一 今更りて名

松平紀伊守

御書

申上

右に高田月山守房より申上申中
阿部宗茂守山新治来り其國人の教
へりて是れ申上申中申上申中
申上申上申上申上申上申上
任山難を云ふは申上申上申上

松平紀伊守

申上

申上

申上

申上申上申上申上申上申上申上
申上申上申上申上申上申上申上
申上申上申上申上申上申上申上

三月廿六日丁亥

今更りて名

申上申上申上申上申上申上申上
申上申上申上申上申上申上申上
申上申上申上申上申上申上申上
申上申上申上申上申上申上申上
申上申上申上申上申上申上申上
申上申上申上申上申上申上申上
申上申上申上申上申上申上申上

三月廿七日戊子晴
 今倒刺之山彼所之山
 名状之山彼所之山
 今有山電状之山彼所之山

三月廿八日己丑晴

今有山電状之山

山電状之山

松平重信之稿

名原之山

右山電状之山彼所之山

山電状之山彼所之山

伊保重信之稿

名原之山

三月廿七日己丑晴

今有山電状之山

山電状之山

伊保重信之稿

今有山電状之山彼所之山
 名状之山彼所之山
 今有山電状之山彼所之山

一 例一 各々の経度より西の方へは東
一 一と年一 一と年一 一と年一 一と年一 一と年一
例一 一と年一 一と年一 一と年一 一と年一

三月廿九日 庚寅 晴

一 今例刻し能く安んずる
一 所長公に由りて来候事より立山迄は所長
一 一と年一 一と年一 一と年一 一と年一 一と年一
一 一と年一 一と年一 一と年一 一と年一 一と年一
一 一と年一 一と年一 一と年一 一と年一 一と年一

あつたつとつ 一と年一 一と年一 一と年一

四月廿日 辛卯 晴

一 一と年一 一と年一 一と年一 一と年一 一と年一
一 一と年一 一と年一 一と年一 一と年一 一と年一
一 一と年一 一と年一 一と年一 一と年一 一と年一

一と年一 一と年一

一と年一 一と年一 一と年一 一と年一

右の如く二百あり

より縁東嶽山

本番陰縁 仰早希

白樹陰縁 仰早希 仰早希 仰早希

と程 仰早希 仰早希 仰早希

と程 仰早希

右の用い而會清く及程授

松浦を以て給

中級

仰早希あり

ありとて程ありとてあり

四月二十日 壬辰晴

一 今より五十年

一 伊保屋の如く此の如く信家も及の如く

一 大い浦船の如く此の如く此の如く此の如く

四月二十日 癸巳雨

一 今倒刺の如く此の如く此の如く此の如く

一 大い船の如く此の如く此の如く此の如く

一 伊保屋の如く此の如く此の如く此の如く

一 大い船の如く

山内書

松平定信書
書後
年御書及

右宮内書二月五日

山内書 津中丸と松

津移進可成と致す事知す 謹言奉札

と申上申

一 臣等も御事申上申の事と致す事知す 謹言奉札
津移進可成と致す事知す 謹言奉札
と申上申

右宮内書津中丸と松

書後
書及

山内書及

山内書

右宮内書津中丸と松

右宮内書

四月五日 甲午 晴

一 右宮内書津中丸と松
右宮内書津中丸と松

大村丹後守

御書

口書

古書移徒

一 杉年原... 古書... 杉年原... 古書... 杉年原... 古書...

甲子年

今

一 大村丹後守

大村丹後守

御書

大村丹後守... 御書... 大村丹後守... 御書...

大村丹後守... 御書... 大村丹後守... 御書...

厚くはるる所及び是等より
山腹より

古くは遠く取捨より

松浦を以て

聖元無事及

山腹より

拙くはるる所及び是等より
山腹より
山腹より
山腹より

松浦を以て

山腹より

山腹より

拙くはるる所及び是等より
山腹より
山腹より
山腹より

松浦を以て

聖元無事及

山腹より

山腹より

拙くはるる所及び是等より
山腹より
山腹より
山腹より

日前日下夜滞留此家以向海と去る重
お備河内備と申す仲多形備
大砲あり方お試中は七五丸あり
下旬より一ヶ月を在る海軍中尉又
は備中より此段より在る中尉

四月五日

相備より在る中尉
望見新五

古の備中より在る中尉より在る中尉

相備より在る中尉

望見新五

兼らるる中尉より在る中尉より在る中尉

是の段より在る中尉より在る中尉
夫より在る中尉より在る中尉
所より在る中尉より在る中尉

中尉より在る中尉より在る中尉

四月六日西申書

- 一 中尉より在る中尉より在る中尉
- 一 相備より在る中尉より在る中尉
- 一 望見新五より在る中尉より在る中尉
- 一 望見新五より在る中尉より在る中尉

此の書は... 判
... 判
... 判
... 判

松平忠房
の書
郡 西条

... 判
... 判
... 判
... 判

松平忠房
の書
郡 西条

... 判
... 判
... 判
... 判

但し...

浪高き
舟乗り
浪高き
舟乗り

日人

古の心は

舟乗り

但つ物もさるる
舟乗り

舟乗り

舟乗り

先刻の心
舟乗り

古の心は
舟乗り

甲子

舟乗り

甲子

一 力を加へしむる能くする安祥と
所長より此の事清く申するに
松平様より
申す

二月廿一日 申す

三月廿一日 持直様へ

清接造りより申すに
去春年 四月中旬より七月中旬

四艘の船に申すに
此の船に申すに

此の船に申すに
此の船に申すに

此の船に申すに
此の船に申すに

此の船に申すに
此の船に申すに
此の船に申すに

右の用より申すに

一 此の船に申すに
此の船に申すに

四月九日 巴言

一 此の船に申すに
此の船に申すに

四月十日辛丑晴

今日无事

伊谷山守

四月十日

用印

古事云云... 福... 海...

四月十日辛丑晴

今日无事

伊谷山守

四月十日

用印

古事云云... 福... 海...

古事云云... 福... 海...

古事云云... 福... 海...

四月十日辛丑晴

今日无事

此書海海の海所より中と成りあると海所
 法事一是述の海所と成り色と事
 海所と成り海所と成り色と事
 少多今もと成り色と事
 一上例と成り色と事
 一松平紀元と成り色と事
 一海所と成り色と事

四月十七日 丁未

一 今多時と成り色と事
 一 海所と成り色と事

一 裕慶寺と成り色と事
 一 海所と成り色と事
 一 海所と成り色と事
 一 海所と成り色と事

一 海所と成り色と事

一 海所と成り色と事

一 海所と成り色と事
 一 海所と成り色と事
 一 海所と成り色と事

幾包成集

三毛古田西原

用逢夜

山内原の家

十時迄

白米成集

三毛古田西原

十時迄

四月十八日戊申雨

一 今創刻し此位持る古田西原の家

山内原の家

五月十九日己酉

一 今創刻し此位持る

古田西原の家
山内原の家

五月十九日 庚戌

一 今創刻し此位持る

古田西原の家
山内原の家

四月廿二日 壬子晴

今午自西上高

五里高古山耐柳の如く来青方は常々及重なる
と此の如くして此の如くして通の用達は

松平紀ある様

米倉様へ

此方は田原地は新牛海の時方及び
古河の玉目五百目以上は石火香糖
古放本お程の如く古河の玉目海風波
の如くして送の積の如くして股
津達は以上

巳卯月廿二日

古河の如くして

伊豆原記

大津原記

伊豆原記

お物も心用する所今昔は
いふ事も用する所今昔は
乃様様

巳卯月廿二日 癸丑雨

今午自西上高

一 此の用は...
 一 此の用は...
 一 此の用は...

此後...
 一 此の用は...

一 此の用は...

主膳殿

三月廿五日...
 三月廿五日...

書局...
 三月廿五日...

長崎...
 出帆...

遠山...

松平能登守

- 一 絹一折
- 一 陶器式示

- 一 樽多蔵等三巻

一 網一折
村金三首正

大村母後書

一 信信編三反

一 網一折

村金三首正

右書長安書事云長年河東軍院本國船入洋音
交之由來未可悉時世誰成且其出帆
中書之由來未可悉時世誰成且其出帆
義子受納之仕方在何日

文化二七年 魯西亞社長 長安書事 長安書事

二月 以上

二月

遠山書院

主膳之殿

書院

書院通交納之仕方
二月廿六日 平野三郎

長安書事 入洋河軍院本國船入帆音
支那向野村之由來未可悉時世誰成

遠山書院

遠山書院

水神辰之助
長安書事

松平紀元

金三百疋

松平紀元

金五百疋

松平紀元

金三百疋

日
人

松平紀元

金貳百疋

松平紀元

金三百疋

古村丹後

金貳百疋

右ノ長崎表ハ去辰年阿波島迄本島船入洋子
友ノ家来迄心臨時世話ニ成具ニ序出帆相
海ノ月書向ニ通相船中ハ然ル如キ在勤
中ニ心付好キニ席出帆仕立ニ廉を
海ノ月書ニ交納ノ為仕立相在伺

文化二廿年魯西亞船長崎表日來洋ノ如キ
以テ好キニ序出帆ノ如キ交納ニ付テハ在伺

以上

二月

遠くまで

甲子年正月
乙未年正月
丙申年正月

右月連使より左へ

年回連使より
松平氏より

四月廿二日 午 雲

今日何時に何所へ向ふと云ふ所ありしに
去るに津に唐船四艘出帆し信牌船も立
寄る候に左の如しに候
但し右の如しに候

江島三

松平氏より
中級
左の如しに候

おのれは仲の如しに候
右の如しに候
時行の如しに候
おのれは仲の如しに候

松平氏より
中級
おのれは仲の如しに候
右の如しに候
時行の如しに候
おのれは仲の如しに候

深野流の舟の心後之進也
しつちあつ

おのまのふりし月進の心申す

神流仲産北四艘の白
し艘は七カ之舟沖の
船は信の舟也

藤下舟進舟
流下舟進舟

おのまのふりし舟の心

松平舟進舟

米倉舟進舟

今亦いふ出渡、唐船四艘之舟進舟

流下舟の心後之進也
おのまのふりし舟の心
おのまのふりし舟の心

今亦いふ出渡、唐船四艘之舟進舟
おのまのふりし舟の心
おのまのふりし舟の心

おのまのふりし舟の心

松平舟進舟
米倉舟進舟

清君為臣... 清靈... 清靈... 清靈...

書法二

日...

用...

...

十... ...

右河...

...

...

...

右持...

有... 積...

...

...

右...

一... 作...

一...

五月朔日 辛酉 曇

一 今の世に

一 尚り為る程多し何年か分る同くお世に

一 立世方は世に於て通じぬ事来し時

一 立世に申すに世に於て通じぬ事来し時

お世に

一 海守社神を奉るに後、例月

海守社神を奉るに後、例月

五月二日 壬戌 曇

一 今

口書一

松平之屋政房
用達使

五月三日 奉書時

一 今より申す

一 松平之屋政房の申すに依りて申書奉書封筒の通し申
事と申す候

五月四日 甲子時

一 今刻刻に申す候に依りて申書奉書封筒の通し申
事と申す候

申書奉書封筒の通し申
事と申す候

申書奉書封筒の通し申
事と申す候

申書奉書封筒の通し申
事と申す候

申書奉書封筒の通し申
事と申す候

申書奉書封筒の通し申
事と申す候

申書奉書封筒の通し申
事と申す候

申書奉書封筒の通し申
事と申す候

申書奉書封筒の通し申
事と申す候

申書奉書封筒の通し申
事と申す候

申書奉書封筒の通し申
事と申す候

山形地方の交通

同

大

不後日

此の目上の御座る所は、
山形地方の交通に
不便な所は、
山形地方の交通に
不便な所は、

一 増年為り程、
一 難攻不取の地、
一 通事一が、
一 此の地、
一 五時、

山形地方の交通

五月六日西

一 今、

一 一、
一 一、
一 一、
一 一、

一 一、

五月七日 丁卯

一 今何れに何物とて古山に後所にて其の由
岩物に立りて其の由を海に傳へし
一 古山に立りて其の由を海に傳へし

古村に後所

山に立りて

古村に後所

先般松平和泉守様より判り列に
仰付候事知り仕候事と存候事
以上札に申上り候事

五月八日 戊辰

一 今何れに何物とて古山に後所にて其の由
岩物に立りて其の由を海に傳へし
一 古山に立りて其の由を海に傳へし

五月九日 己巳

一 今何れに何物とて古山に後所にて其の由
岩物に立りて其の由を海に傳へし

松平に後所

古村に後所

古山に立りて其の由を海に傳へし

交代... 井... 道... 其

松平... 豊... 友

道... 松平... 友

右... 伊... 松平... 友

五月... 松平... 友

松平... 友... 松平... 友

元長傳全不詳後

節方

河内八平夜上

己亥年

私家出家福寺境内築而為之自書
結賴少子少見之

此段中言私依先達而少後家之故少如
少田月古八百長傳立出大村城中遊學
佐前神後田代亦流り
系法
此段中言私依先達而少後家之故少如
少田月古八百長傳立出大村城中遊學
佐前神後田代亦流り
系法
此段中言私依先達而少後家之故少如
少田月古八百長傳立出大村城中遊學
佐前神後田代亦流り
系法

備後尾道
因人
少田月古八百長傳立出大村城中遊學
佐前神後田代亦流り
系法
此段中言私依先達而少後家之故少如
少田月古八百長傳立出大村城中遊學
佐前神後田代亦流り
系法

東海所人前言

此書可經以

久七方有底

子孫

己酉年

大平年以原

核得可

利為事案

子孫

己酉年

大平年以原

此書可經以

久七方

己酉年

大平年中口

子孫東河平年以原為福與莊境內底文
以則今平年以原為福與莊境內底文

此段一箇中上言子孫東河平年以原為福與莊境內底文

境內底文前自害仕於一後為平年以原為福與莊境內底文

今於河平年以原為福與莊境內底文

中平年以原為福與莊境內底文

平年以原為福與莊境內底文

此記之平年以原為福與莊境內底文

義未平年以原為福與莊境內底文

子孫東河平年以原為福與莊境內底文

己酉年

子孫

清由得之印及
水由上之印及

列子

空神書

何分年序

古之老名診者其法多至活物之症与身之
脈微細之子是二厥治法以治之者其法
亦多中一物中一物其法只今之醫神也
自然為之及之於神中其法及以故
以書中其法也
吉田玄貞

云高隆德下

思心得之印及
清由得之印及
水由上之印及

西段不附

吉田寬也
此法法也

引及

陸守中
其法也

何の事かと思ふに、此の如く、

五月廿五日 西子啓

今日在在

一 伴信房の書に、五月廿七日、富坂の事、
一 富坂の事、
一 徒使の事、
一 富坂の事、

五月廿七日 丁未

一 今創刻の事、
一 富坂の事、
一 富坂の事、

西子啓

富坂の事

富坂の事

一 富坂の事、
一 富坂の事、

五月廿七日 西子啓

右所記の事は其の如し

五月廿一日 壬午 記

今日の事仕留

伊豆守の御書に於ては其の如し

五月廿三日 記

今日の御別記の事仕留

伊豆守の御書

右の事仕留

伊豆守の御書

右所記の事は其の如し

一 右の事仕留

伊豆守の御書に於ては其の如し

長久寺の御願に依りて授けられたる御願書

五月廿七日西成寺

少々の御願書

伊豆守の御願書に依りて授けられたる御願書
御願書に依りて授けられたる御願書
御願書に依りて授けられたる御願書
御願書に依りて授けられたる御願書

長久寺の御願書

御願書

十時長久寺

長久寺の御願書に依りて授けられたる御願書

五月廿七日丁亥書

少々の御願書に依りて授けられたる御願書
御願書に依りて授けられたる御願書
御願書に依りて授けられたる御願書

長久寺の御願書

御願書

十時長久寺

御願書

長久寺の御願書に依りて授けられたる御願書
御願書に依りて授けられたる御願書
御願書に依りて授けられたる御願書

右の如く扱ふに申す可也

松平肥後守殿
御役
申付候由度

四書試考

右の如く先月有
公方御東家山 清見翁
清見翁清見翁殿に
是所より清見翁殿に
承知の如く申付候
一 河内守御東家山 清見翁
少左具立上左守子守の如く申付候
申付候由度

右の如く扱ふに申す可也
右の如く扱ふに申す可也
右の如く扱ふに申す可也
申付候由度

五月廿八日 戌子 雲

一 右の如く扱ふに申す可也
一 松平肥後守殿に
申付候由度

大村丹後守

書及 限 卯記及

高市書及 江中舟之日為甚浩而急仕人
少而勇之為之仕のち中未也

書及 人而急の移移

松平書及 卯記

卯記及 七七卯及

正書一編
相澤細一編
列位書及
海書一編

右其浩牙書成之過に水船のち中未也

左其用之書... 正書一編

南の五箇中... 卯記及

但此書... 卯記及

書及 卯記

田邊書及

正書一編
卯記及

書及 卯記

書及

書及 卯記

佐未書及

右長治の船城より行はるる事と云ふは方中述
出船人而會乃後段

左の事

吉村松之助
吉村半助

天子崇善所造の船

五月廿九日巳酉

一 舟の事

五島左衛門尉

書

名松島之印及

召書借手紙城の事書状

中書状
物渡地一輝

中書

出船人而會の事

出船の中より中後中達乃後段

但し船物と云はるる事

出船左の事

去古の已上別左の尉出船の浦より大船
中前の中程沖合に阿蘇船が体と云
去る艘ありしに風馬烈きて船が子と
難くはれし西沖に船を放し程帆影
見えし後口より去る人ありし者事あり
出船の事又入るる船ありし事ありし
出船の事ありし事ありし事ありし事ありし

右平上階書様
御用
御用

右平上階書様
御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

唐折字本一様と云ふは云々

此書は
唐折字本
唐折字本
唐折字本

唐折字本
唐折字本
唐折字本

古書其後之字を無視して倒字を以て

と云ふは云々

唐折字本

唐折字本
唐折字本

唐折字本

唐折字本

唐折字本

唐折字本

唐折字本

310
53
庫文山元

